2023.10.22（日）

使用済み核燃料の行き場はないぞ！

全国集会

１５：００ 開会

■ 司会あいさつ

★関電に向かってコール

■ 主催者あいさつ
■ アピール「使用済み核燃料の行き場はないぞ」
■ 使用済み核燃料/地元から
　◇ 青森 ／ 核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会
　◇ 上関 ／ 原発に反対する上関町民の会
　　上関原発を建てさせない祝島島民の会
　　上関の自然を守る会
　　原発いらん！山口ネットワーク
　　原水爆禁止山口県民会議
　◇ 若狭 ／ 原発住民運動福井・嶺南センター
　◇ 柏崎 ／ 新潟市議会議員・中山均
　◇ 伊方 ／ 原発さよなら四国ネットワーク
■全国各地から
■各地からのメッセージ　お名前の紹介
■今も避難を続ける福島県浪江町住民

★関電に向かってコール

■ カンパのお願い
■ 関西各地から
　◇（滋賀）原発のない社会へ 2024 びわこ集会実行委員会
　◇（大阪）ストップ・ザ・もんじゅ
　◇（大阪）原発ゼロの会・大阪
　◇（兵庫）脱原発 明石・たこの会
　◇（奈良）原発ゼロ・被災者支援 奈良のつどい実行委員会
■ 労働組合から
　◇ おおさかユニオンネットワーク
　◇ 大阪平和人権センター
　◇ 全労連近畿ブロック
■集会決議
■デモの説明

★関電に向かってコール

トイレ情報　関電の西側、道路を挟んだ向かい側に黒い建物がたっています。これは「大阪中之島美術館」で、1階にトイレがあります。建物東側（関電に面した側）の玄関を入ってすぐです。

１６：３０ 閉会 ⇨ （西梅田公園に移動）１６：４５ デモ出発 ⇨ １８：００頃 デモ終了

［主催］老朽原発うごかすな！実行委員会

●全国からのメッセージ

【福島県】

放射能汚染水の行き場はないぞ！

原発いらね！ふくしまの女と仲間たち／黒田 節子

使用済み核燃料の行き場がないのとまったく同様に、福島第一原子力発電所から出た放射能まみれの汚染水の行き場はないのです。しかし、8.24 に続きこの 9.15 に二回目の海洋放出がされてしまいましたが、二回目の放出はマスコミも市民メディアもほとんど報じませんでした。この日、私たちは浪江町に出向き「道の駅」で街宣、県の富岡土木事務所で交渉、請戸川河口の浜では「テントひろば」お披露目会の準備で汗を流しました。

さて、皆さんご存知ですか？　政府は汚染水を船舶の「バラスト水」に使用する計画があることを。バラスト水とは、船を安定させるための「おもし」として船に入れる水をいい、もちろん海水を使いますが「大型の国際貨物船が LNG（液化天然ガス）や石炭を積んで小名浜港や相馬港に入港し、その帰りに海底トンネル前で汚染水を取り込み、両港でバラスト水を交換する。これによって希釈を加速し、安全基準を満たす」等々の内部文書が、外務省職員と推測される人から漏れています。驚くべき着想。これは大型船舶を使って汚染水を世界の海に拡散させるという最悪の問題を引き起こしますが、新宿御苑や所沢市への汚染土持ち込みの件など、「放射能を全国に拡散する・薄めて流す・見えなくする」にご熱心な政府の、いかにも考えそうなことではないでしょうか。

＊参考「People's News 23.9.5 号」

原発がひとたび大事故を起こしたらどうなるか？ 12 年後はどうなっているのか？　その「先進地」フクシマに足をお運びください。F1 のクレーンがはるか向こうに見える請戸浜でキャンプをし（ホテル等もあり）、これからもさらに連帯して繋がり、核汚染社会への暴走を食い止めるために集いましょう。

自前で汚染を測ることも、研究者と共にここでやっていきます。

＊詳細は「請戸川河口テントひろば 創設・お披露目会のお誘い」のチラシをご覧ください。

【東京都】

「使用済み核燃料」は発生してからずうっと「行き場がないぞ！」

再稼働阻止全国ネットワーク 使用済み核燃料問題検討チーム／木村 雅英

チラシを撒きながら「君はトイレなきマンションでうんちする？」と子どもに尋ねると、その子は 3 度も首を横に振った。子どもでも分かる愚かな施策を人類はずっと続けている。ウンチは資源になるが、核ゴミは 10 万年も放射能をまき散らす死の灰だ。

核分裂を起してお湯を沸かす愚かな原子力発電は恐ろしい装置だ。例えば 100 万 kW 級の原発を一年間稼働すると、広島原爆 1000 発分（セシウム 137 だけで 20 京ベクレル）の死の灰と、長崎型 20 個分の核爆薬（プルトニウム 250 kg）と、大量のウラン廃棄物 200 万本（ドラム缶換算）ほかを吐き出す。

原発を米国に押しつけられて使い続けている日本。広島・長崎の核被害を受け、とうとう 2011 年 3 月 11 日に東電福島第一原発事故を起こして多くの人々の生活と生業と故郷を奪い、未だに「原子力緊急事態宣言」下にあり、大量に貯まった放射能汚染水の海洋投棄を開始した。にも拘らず、6 原発 12 基が稼働してどんどん「使用済み核燃料」を貯めこんでいる。

特に「反社会的」組織 関西電力は「使用済み核燃料を県外に搬出する」との福井県との約束を口から出まかせ説明で何度も破ってきた。そして本年 10 月 10 日には「使用済燃料対策ロードマップ」を策定、六ケ所再処理工場（2024 年竣工）、フランスオラノ社での使用済み MOX 燃料再処理実証研究（2027 年開始）、中間貯蔵施設の他地点確保と操業（2030 年開始）と、またまた実現可能性の低い計画を発表。一方で、原発構内に乾式貯蔵施設の設置の検討を開始し「県外」を福井県に断念させようとしている。

原発稼働開始以来、ずっと行き場が無い「使用済み核燃料」。唯一の解決策は原発をうごかさないことだ。国内の総ての原発の再稼働を阻止しよう。

【新潟県】◆読みあげ◆

集会へのメッセージ

新潟市議会議員／中山均

核燃料の採掘、原発の運転、使用済み核燃料の貯蔵や処理、福島原発事故処理汚染水の海洋放出など、原子力政策は放射能の被害を矮小化し、矛盾と犠牲、核のゴミを地方と未来世代に押し付けることなしに成り立たないことは明らかです。破綻した原子力政策に固執する政府と電力会社に抗議する皆様の奮闘に、まず、心より敬意と連帯を表明します。

私たちの地元新潟県では、柏崎刈羽原発を巡り全国から注目された県独自の「三つの検証」が、自民党に支えられた現知事によって変質させられ、これまでの検証の「総括」が県によって幕引きされ、県が代わって事務的に取りまとめた最終的な報告書が先日公表されました。その内容は単に「お粗末」なだけではなく、多くの課題を巧妙に都合良く切り取って歪曲を重ねたもので、きわめて悪質なものでした。その意図が原発再稼働に向けた障壁の撤廃であることはもはや明白であり、事態は重大な局面を迎えています。

これに対し、私たちは県の報告書を批判するパンフレットを作成し、さらに広い県民議

論を起こすべく、池内了・前検証総括委員長を県内各地に迎え、タウンミーティングを繰り返す活動を展開しています。また、県議会や市町村議会での徹底議論、市民団体によるさまざまな活動も重ねられています。

核燃料サイクルが寸断され破綻する一方で、私たち全国の運動は互いにネットワークし、情報と経験を共有し、連携を強めていると確信します。本日の行動に参加された皆さん、全国各地の皆さんと連帯しながら、新潟でも原発再稼働阻止のために活動を重ねていくことをお誓いし、連帯のメッセージとします。

新潟で脱原発に向けて活動する仲間たちとともに。

【静岡県】

集会へのメッセージ

浜岡原発を考える静岡ネットワーク 代表／鈴木卓馬

政府・電力業界などの原発推進派は、原発回帰政策を掲げ、またも国民を騙しながら政策推進を強行している。原発はもともと人間の手に負えないものであることは、福島原発事故を始め過去の多くの事故がそれを証明している。したがって、原発には多くの乗り越えることの出来ない課題を抱えている。その課題をごまかし、騙しながら原発稼働を進めてきたのが実態である。

しかし、どんなにごまかし、騙そうとしてもどうにもならないことが二つある。「核のゴミ」の処理と原発過酷事故における住民の避難問題である。この二つは彼らのアキレス腱であり、住民とっては非常にわかりやすい問題でもある。

静岡県知事は、核のゴミ問題を取り上げ、浜岡原発の再稼働を論議する段階ではないと言っている。このままでは「トイレなきマンション」は解決不可能な課題として永久に続く。

原発を永久に放棄し、その上にたって、核のゴミ対策を論議するのが順序である。

【岐阜県】

集会への連帯メッセージ

さよなら原発・ぎふ／近藤ゆり子

岐阜県美濃地方では、ほぼ年間を通じて福井方面からの北西の風が吹いています。福井の原発に「何か」があれば、岐阜県民は大きな被害を受けることになります。このことは、2012 年 3 月の美浜原発前の水晶浜からの私たちの「風船飛ばし実験」の結果でも、同年 9 月に岐阜県が公表した「放射性物質拡散シミュレーション」でも明らかです。

しかし、原発の立地自治体でもなく、関西電力の電力供給地域でもない岐阜県では、福井の原発についての情報はほとんどありません。私たち岐阜県の住民は「蚊帳の外」におかれています。原発敷地内にためられた使用済み核燃料の危険についても全く知らされていません。

一昨年、関西電力は、2023 年末までに使用済み核燃料の福井県外搬出先を確保する、計画地点を示せなければ、老朽原発 3 基を停止すると明言しました。この 6 月、関電は、少量、一部をフランスに搬出する、県外搬出の

約束はこれで果たした、と言い出しました。詭弁です。10 月 10 日、今度は空冷式の乾式貯蔵施設の整備検討を始めたとして、約束破りを誤魔化そうとしています。関電は、約束通り、老朽原発 3 基を停止するべきです。

私たちは、福井の原発にたまりつづける使用済み核燃料の危険にさらされたくありません。どこの住民も使用済み核燃料を引き受けたくはありません。過疎に悩む自治体のホッペタを札ビラでひっぱたくことで、行き場を作ろうとするのは許せません。使用済み核燃料の行き場はないのです。

すべての原発を止め、これ以上使用済み核燃料が増えないようにすること。それが問題に対処する第一歩です。

12 月 10 日には「さよなら原発パレード in ぎふ－第 49 回－　地震大国ニッポン　原発とめよう！」を行います。地震大国で原発に固執する愚を続けさせるわけにはいきません。私たち市民の声で、原発ゼロを実現していきましょう。

【石川県】

かつての予定地「高屋」「寺家」は群発地震の真上
原発がなくてよかった！中間貯蔵なんて とんでもない！

志賀原発を廃炉に！訴訟原告団 団長／北野 進

今年 5 月 5 日午後、最大震度 6 強、M6.5 の地震が珠洲市を襲い、地域に大きな被害をもたらしました。2020 年末から続く群発地震、その中でも最大級の揺れで、震央はかつての珠洲原発の予定地、関電の「高屋（たかや)」と中電の「寺家（じけ)」のほぼ中間あたり、距離にしてわずか 5km の地点でした。さらに同日夜にも震度 5 強、M5.9 の地震が起こり被害に追い打ちをかけました。この地震の震央はなんと高屋の調査予定地のすぐそばでした。この間の何百回と続く群発地震の震央を地図に落とし込むと高屋や寺家は群発地震の巣の真上に位置していることがわかります。地下の流体が地震を引き起こしていると言われますが、詳細なメカニズムは不明です。

群発地震の収束はいまだ見通せず、それどころか今後さらに大きな地震が能登を襲うかもしれないと地震学者は警告を発しています。もっとも警戒されているのは能登半島の先端、珠洲市の沖合から輪島市の沖合にかけて走る能登半島北部沿岸域断層帯への影響です。北陸電力が志賀原発の再稼働に向けて規制委に提出した資料によると長さ 96 km、最大震度は M8.1 と評価されています。そしてこの断層帯に向かって地下の流体は広がっているのです。

珠洲原発は関電、中電、北電の 3 社共同開発、予定地は半島先端に位置し海上輸送にも適しているため、原発計画はカムフラージュで、狙いは中間貯蔵も含めた核のゴミ捨て場ではないかと当時から噂されていました。原発計画が撤回された後も全国の皆さんから珠洲は大丈夫かと心配する声が寄せられてきました。

しかし市内には地域を二分する争いはもうゴメンだという住民感情が広く浸透しています。加えて今回の強烈な地震によって、かつての立場の違いを超えて「珠洲に原発がなくてよかった」との声が市民の中から上がっています。使用済み核燃料を持ち込む余地などありません。

【福井県】

10.22 集会メッセージ
若狭の原発は今年2023年10月10日、クーデター的大転換した。

ふるさとを守る高浜・おおいの会（高浜町）／東山 幸弘

関西電力は 10 月 10 日、福井県と県議会に使用済み核燃料対策について、新たな方針を示した。これまでは県は「原発での発電は認めるが、それに伴う使用済み核燃料は県外搬出」、原発構内にある使用済み燃料プールの増設は認めないとしてきた。青森県の六ヶ所再処理工場の稼働が進まない中、関電は 2021 年、「2023 年末までに 2,000 トンの使用済み核燃料の『中間貯蔵施設』の候補地を示す。それができなければ老朽原発 3 基（関電は老朽原発とは決して言わない。高浜原発 1、2 号機と美浜原発 3 号機）の運転は停止する」と約束して再稼働が認められた。その約束の期限の今年 2023 年 6 月、200 トンをフランスに搬出するので、「中間貯蔵」と同等だ、と説明したが、杉本県知事も県議会も回答を留保してきた。この日、経産省エネ庁と関電水田副社長は県と議会に対し、その後の検討「対策ロードマップ」を示した。午前 10 時からの県議会全員協議会での説明と質疑（この会議前に中村副知事に説明、協議会中に中村副知事は立地 4 市町長と Web で会議）、午後 1 時から杉本知事の説明と質疑を経て、協議会は終了。

関電にとって若狭の原発全 7 基が運転することになったが、一番の問題は使用済み燃料プールが一杯になり、運転できなくなること、特に高浜は 4 年余りでプールの空きがなくなる。2029 年末フランスへの搬出、10 日の県議会で山口県上関のかの字も言わなかったが中国電力と結託した「上関中間貯蔵」にゴーが出ても 10 年以上はかかり、間に合わない。六カ所再処理工場の稼働頼みの「ロードマップ」を示したが、25 年間かかっても動かせないものが来年、再来年に動き、空いたプールに高浜から搬出できるとはとても考えられない。そこで初めて言及したのが「発電所構内に乾式貯蔵施設の設置」である。ただし、プールから上げても空いたプールに「原則」入れない、増加させない。スムーズに「搬出」するための準備にすぎないと。

予定より 1 時間遅れて、午後 4 時半から開催の本会議において、「ロードマップ」を評価し、「基本的に了解」することになった。副知事との短時間のしかも Web 会議で 4 立地市町の首長は「発電所構内に乾式貯蔵施設の設置」を立地の住民はもとより、議会にも諮らず「のまされた」わけである。これはクーデター的大転換である。せめて「構内乾式貯蔵に期限を」との提案も、あっさり賛成多数で否決。

13 日、杉本知事は森関電社長、西村経産大臣に会ってシャンシャンと手打ち式をやって完了。

これまで曲がりなりにも福井県は使用済み燃料の県外搬出を言って、原発の行く末に歯止めをかけていた。その箍（たが）が外れた。これからは「電気が足りない、再エネは不安定で結局高くつく」と指揮棒を振れば大合唱で、軽く「原則」など吹っ飛ぶ。六ヶ所再処理工場が動かずとも、他所に「中間貯蔵」施設を造らなくても、これで関電は「安心」して若狭の原発をフル稼働できるお墨付けをもらったことになる。

あの過酷事故の後、慚愧と反省のもと解体されたはずの広告塔「原子力明るい未来のエネルギー」。これが為政者、利権集団の画策によって、今新しい装いを持って再び大々的に立ち上がろうとしている。

【福井県】

ロードマップは乾式貯蔵がキモ

若狭町／石地 優

10 月 10 日、資源エネ庁と関西電力が福井県と県議会に使用済燃料対策の再説明に来て、関電はロードマップを示し理解を求めた。

さて、今回関西電力が示した使用済燃料対策ロードマップの概要は次の通りです。

○中間貯蔵施設の他地点を確保し、2030 年頃操業開始。

○ 2025 年度から再処理開始、2026 年度から受け入れ開始。再処理工場への関電の使用済燃料の搬出に当たり必要量を確保し搬出するよう取り組む。

○ 2030 年頃までの間､六ケ所再処理工場及び、仏国オラノ社への搬出により、使用済燃料の貯蔵量の増加を抑制。

○ロードマップの実効性を担保するため、原則として貯蔵容量を増加させない。

○使用済燃料の発電所からの将来の搬出に備えて、発電所の構内に乾式貯蔵の設置を検討。

要約すると、2030 年頃までの中間貯蔵の操業開始を前提に、それ迄の間六ヶ所再処理工場と仏国への使用済燃料の搬出で賄い、使用済燃料の貯蔵量の増加を抑制することである。このロードマップの実効性を担保するため、原則貯蔵量を増加させず、また発電所内に乾式貯蔵施設の設置を検討するとしている。

歴代の福井県知事が 1997 年から関電に要望したのは、中間貯蔵施設の県外立地点を確定し操業することであり、継続性のない仏国への搬出が中間貯蔵施設の県外立地にはなり得ません。そのことを補完するために提示したロードマップは、2030 年頃の中間貯蔵施設の操業開始は場所の確定すらできていない現状では無理であり、2026 年からの再処理の受け入れ開始も 26 回も延期している現実を考えれば無理と考えるのが自然です。

そう考えると、今回のロードマップ提示は使用済燃料の県外搬出にあるのではなく、発電所内に乾式貯蔵施設を造ることにあると考えるのが妥当です。私たちはサイト内の乾式貯蔵に反対し原発を止めれば、中間貯蔵施設を造る必要がなくこれ以上の使用済燃料も増えません。知恵をしぼり、力を合わせて止めましょう。

【京都府】

集会へのメッセージ

福知山地方労働組合協議会 議長／奥井 正美

10.22「使用済み核燃料の行き場はないぞ」全国集会参加のみなさんご苦労様です。集会参加のみなさんと原発廃炉で奮闘されておられます全国のみなさんへ連帯のメッセージを送ります。

京都府福知山市において、キンカン行動を行っています。毎週福知山駅南口交差点において参加者の内 2 ～ 3 名の方々がスピーチをされます。

現在は、「関電による使用済み核燃料」搬出問題（フランスの企業への 5 %搬出）と上関における中部電力の「中間貯蔵施設建設」をめぐる問題点や環境問題点それと関電の思惑。岸田政権、東京電力汚染水放出（アルプス処理水）批判をスピーチの基本で行っています。

「継続は力なり」を思いながら粘り強く宣伝行動を行っています。全国のみなさんの頑張りがあるからこそ、私たちも連帯をした宣伝活動ができています。

今後とも全国のみなさんと共に原発廃炉を実現するまで奮闘する決意を申し上げて、福知山地方労働組合協議会よりの連帯のメッセージとします。

共に頑張りましょう！！

【島根県】

メッセージ

さよなら島根原発ネットワーク／芦原 康江

島根原発 2 号機の再稼働時期が迫る中、この原発の運転差し止めを求める裁判原告によって 3 月 10 日に仮処分の申し立てを行っています。中国電力は、その再稼働を来年 8 月に行うと公表しました。

第 2 回の仮処分審尋では、申立人、そして中国電力双方からのプレゼンテーションを行いました。申立人側からは「なぜ、島根原発の運転を止めなければならないのか」渾身のプレゼンをしましたが、中国電力は相変わらず適合性審査での主張を繰り返すのみでした。私たちは、全力で裁判に取り組み、再稼働を止めたいと思います。

この 2 号機が稼働すれば、プルサーマルが実施され、使用済み MOX 燃料は燃料プールに置きっぱなしになるのは間違いありません。そして、60 年超の長期運転が行われれば、その使用済み核燃料も行き場をなくすことは容易に想像がつきます。さらに、核燃料サイクルが破たんしている中、仮に最処理工場が稼働したとしても、搬出できる核燃料は稼働している原発のひっ迫したプールの燃料が優先されるのではないでしょうか。こんな推測をすれば、廃炉となった 1 号機の核燃料は搬出ができなくなることも予想されます。

島根原発の燃料プールは、再稼動すれば 9 年で満杯になりますが、当面、逼迫している状況ではありません。それでも、将来の核燃料サイクルの見通しに期待できないことを証明するように、中国電力は関西電力と共同で、山口県上関に「使用済み核燃料中間貯蔵施設」建設のための調査申し入れを行いました。「中間貯蔵施設」を作れば、島根原発の長期稼動を保証することになり、廃炉を願う私たちは作らせてはならないと声を上げています。また、長年、原発建設計画で住民を苦しめてきた上に、更に島根の核ゴミを押し付けることは絶対に容認できません。

これ以上、核のゴミを作らせないよう、関西の皆様とともに、全ての原発廃炉を勝ち取っていきましょう。

連帯メッセージ

原発に反対する上関町民の会
上関原発を建てさせない祝島島民の会
上関の自然を守る会
原発いらん！山口ネットワーク
原水爆禁止山口県民会議

10・22「使用済み核燃料の行き場はないぞ！全国集会」にお集りの皆さまの取り組みに心から敬意を表し連帯のメッセージをお送りします。

中国電力は 8 月 2 日、関西電力と共同で、原子力発電所から出る使用済み核燃料を一時的に保管する中間貯蔵施設について、山口県上関町に建設を検討していることを表明。上関町長は十分な住民説明もないまま、短期間で調査受入れを決めました。

使用済み核燃料は、猛毒のプルトニウムや多種類の放射性物質を含む危険な核のゴミであり、中間貯蔵施設は、核燃料サイクル政策が破綻している状況を踏まえると、「最終」の貯蔵施設となる可能性が高いこと、そして長期にわたって安全に貯蔵できる保障がないことは明らかです。

上関町では今から 41 年前の 1982 年に原発建設計画が表面化して以降、長きに渡って地元町民は、いわゆる推進派と反対派に二分され、町内の人間関係はズタズタとなりました。しかし、2011 年に起きた福島第 1 原発事故を受けて、上関現地での埋め立て工事は中断、再開の見通しも立たない状況となってからは、高齢化と過疎化が進む町の将来を憂い、推進派、反対派の垣根を越えて、原発に頼らないまちづくりに協力していこうという動きも出てきています。しかし、今回の中間貯蔵施設建設計画により、再び町内に争いや対立が生まれようとしています。

原発については、2011 年の福島第 1 原発事故を受けて、安全神話が崩壊し、稼働停止の状態が発生しましたが、省エネの推進や再生可能エネルギーの活用などにより、需要と供給のバランスを確保することができました。

本来であれば、2011 年を契機として国が脱原発政策を推進し、ドイツのように風力や太陽光などの再生可能エネルギーの推進に舵をきるべきでしたが、相変わらずの原子力ムラに配慮し、無策のまま年数が経過したため、再生可能エネルギーを中心とした供給体制の構築に至っていません。

それどころか、岸田首相は、温暖化対策にこじつけて原発の再稼働を推し進め、運転期間の延長や新型小型原発の開発などにより、原発を中心とするエネルギー政策を推進しようとしています。

未来を生きる人たちへ、安全で安心に暮らすことができる社会を残すことは、今を生きる私たちの責務です。そのために、一刻も早い脱原発社会の実現をめざして、共にたたかいましょう。

集会への連帯メッセージ

原発さよなら四国ネットワーク

今日私たちは伊方原発ゲート前で第 37 回伊方集会を開いています。1988 年、伊方原発の出力調整実験の後「一刻も早く原発を止める」という意志をもって毎年開いてきた集会です。

伊方原発ゲート前からは祝島が見えます。その島影の右隣にあるのが上関です。その距離 42 キロメートル。

※

今回「上関に中間貯蔵施設建設」のニュースを聞いて「原発建設は無くなるのだろう」と思いました。しかしなんと「それはそれ」「これはこれ」で原発建設と並行してコトを進めるというではありませんか。しかも今現在、中間貯蔵施設を急いで必要としているのは、中国電力ではなく、使用済み燃料を県外に出さなければ稼働できない関西電力ですと。おまけに、地元上関の町長は、中電に地元振興策を要請していたと言うではありませんか、本来自治体の仕事である地元振興策の提案までしゃしゃり出てきた上に、他人のうんち（である関電の使用済み核燃料）を押し付けようとする中電さん、あなたの仕事はなんですか？

ゴミ置き場を作る前にゴミ作り＝原発の稼働を止めるべきです、と関電にも言いましょう。

上関町長には核施設を引き受けて「振興」した地域があるのか聞きましょう。少なくとも伊方町は愛媛県内でもっとも人口減少率の高い（or 最も過疎化の激しい）地域です。

※

上関・祝島周辺は「奇跡の海」と呼ばれています。瀬戸内海の他地域では失われた生物多様性がここには残っているからです。伊方原発稼働時には取水時よりも 7 ℃高い温排水を毎秒 53 トン出して居ます。これは一級河川、肱川の渇水時流量の 10 倍です。温暖化対策に CO_2 を出さない原発、と電力会社は言うけれど、一級河川以上の量の温排水で海を直に温め、生態系を撹乱しているのが伊方原発です。

※

ここ伊方原発でも敷地内に乾式貯蔵施設が作られて（建設中）しまっていますが、ここはすでに 17 年 12 月の広島高裁仮処分決定で、阿蘇山で「カルデラ破局噴火」が起きた際には火砕流で破壊される地点である（したがって原発も立地不適である）と認定されています。

九州と四国にある原発は全て、この阿蘇山の既往最大の火砕流到達距離である 130 キロ圏にあり、乾式貯蔵施設でずるずると何百年間も使用済み核燃料を陸上保管していれば、火砕流に巻き込まれて放射能を拡散するリスクが著しく高いのです。

そして、こともあろうに、中間貯蔵計画が持ち上がった上関町もちょうどこの 130 キロ圏なのです。こんなところにわざわざ西日本じゅうの原発の使用済み核燃料を集中させようと考える関西電力は、人類絶滅を企む悪の秘密結社とみなすべきです。

※

今日もあちこちで原発を止めるため声をあげている人々がいます。この運動の多様性こそが全ての原発を止めることを願いながら連帯のメッセージとエールを送ります。

フレッフレッ 私達！

→

第 37 回　伊方集会　すべての原発を廃炉に！

福島原発事故から何も学ばず、原発推進政策を推し進める政府と電力会社のさまざまな策略に対し、各地の運動が活発に活動していることに励まされる毎日です。

四国電力は来年７月で伊方３号機のプルサーマル運転を中断するといっています。核燃料の再処理とＭＯＸ燃料の加工を委託しているフランスで生産できないのが原因です。南海トラフや中央構造線活断層の地震の脅威や、阿蘇カルデラ噴火の脅威、現実性のない避難計画など難題山積です。福島原発事故で苦しみ続けるたくさんの人たちを見捨てながら、もう「想定外」は通用しません。

また、伊方原発と瀬戸内海を挟んで真向かい 42 kmの地、スナメリをはじめ希少な生き物の棲む山口県の上関では、関西電力と中国電力が、使用済み核燃料の中間貯蔵施設を画策しています。上関原発誘致遅延の替わりの「地域振興策」として狙われているのです。

四国の空では、岩国基地の米軍機の訓練が激しくなってきています。琉球弧に繋がる軍備増強も原発の脅威です。さまざまな問題がひとつながりとなって見えてきます。未来に禍根を残さない！ふるさとを守る！

私たちの掲げる旗は「ふるさとは原発を許さない」です。

全国各地が繋がり反対の声を挙げていきましょう。お集まりください！！

10 月 22 日（日）　スケジュール

10：00～　伊方原発ゲート前の抗議行動・アピール
11：00　　四国電力への申し入れ　＊団体、個人でも抗議文をご用意ください
11：30～13：00　移動・昼食
13：00～　交流会　　於；佐田岬半島ミュージアム　会議室
（愛媛県西宇和郡伊方町塩成乙 293　Tel0894-21-3400）

久しぶりに顔を合わせて語り合いましょう！

● 10.22「使用済み核燃料の行き場はないぞ！全国集会」集会決議（案）

岸田政権は、福島原発事故から12年を経た本年5月に、原発関連法を改悪し、「原発依存社会」に向かって暴走しています。また、8月には福島県や全国の漁連をはじめ、国内外の反対の声を無視し、福島原発に溜まり続けている放射能汚染水を、「処理水」と言い換えて、太平洋に投棄し始めました。

一方、原発推進へと暴走する政府のお先棒を担ぐ関電は、若狭の老朽原発3基を再稼働させました。

福島原発事故の教訓をないがしろにし、世界の人々の脱原発の願いを蹂躙するものです。

ところで、関電は、「2023年末までに、使用済み核燃料の中間貯蔵地を福井県外に示す。示せなければ老朽原発を止める」と福井県知事に約束していますが、未だに候補地を見出せていません。現在、関電の原発燃料プールの約8割が埋り、3～7年後にはプールは満杯になるため、原発を止めざるを得なくなります。切羽詰まった関電は、「保有する使用済み核燃料のわずか5%のフランスへの搬出」を発表し、これで約束を果たしたとしています。

さらに、関電と中国電力（中電）は結託して上関町に中間貯蔵地建設のための調査を申入れました。原発建設に反対し、瀬戸内海の美しい自然と希少な生態系を守る住民の心情を逆なでする関電と中電を、全国の反核運動の連帯によって糾弾しなければなりません。なお、上関の西町長は、申入れからわずか16日後に調査受け入れを表明しました。悲しくも提示された補助金に飛びついたのです。

このような使用済み核燃料の中間貯蔵に関する対応について、福井県から説明を求められた関電は、今月10日、青森県の再処理工場の活用、中間貯蔵施設の確保を盛り込んだ工程表を示し、搬出の円滑化のために原発構内に乾式貯蔵施設の設置を検討するとしています。関電が示した工程表は、国策である核燃料サイクルが、近々動き出すことを前提に策定されていますが、再処理工場稼働の見通しはなく、「絵に描いた餅」です。しかし、福井県知事は13日、これを容認しました。「原発の運転継続ありき」の出来レースです。

原発関連施設の建設は、過疎化や財政難を抱えた地域に、交付金をチラつかせて押し付けられました。関電が中間貯蔵地として狙う、むつ市や、上関町もその例です。しかし、一旦誘致すれば、自然破壊、地域産業の衰退を招き、交付金に頼るしかない状況に陥ります。住民の分断も生じます。原発を推進したい政府や電力会社の巧妙なワナです。このようなことを繰り返させてはなりません。

本日、関電前の全国集会に結集した私たちは、全国で脱原発を闘うみなさんと連帯して、使用済み核燃料の行き場はどこにもないことを、改めて確認しました。

まず、使用済み核燃料の発生源・原発を全廃し、使用済み核燃料の処理、処分について広範な議論を巻き起こしましょう！

関電と福井県の「出来レース」を糾弾し、老朽原発を廃炉に追い込みましょう！

原発推進関連法は、先の通常国会で成立しましたが、実行するには、関連の法体系の整備が必要です。また、法をどのように解釈・運用するかは反原発の行動との攻防によって決まります。原発推進関連法を実行させない、目に見え、耳に聞こえる闘いを前進させましょう！

原発を全廃し、安心、安全な明日を築くために大きく前進しましょう。

以上、決議します。

2023年10月22日

「使用済み核燃料の行き場はないぞ！全国集会」参加者一同